いっちん子ども自然塾　　2月度活動報告

活動の目的　農作業歳時記に従って、子どもたちに年間を通じて農作業を体験し、森の草木や生きものを観察し、自然とかかわることの楽しさを味わい、自然環境の大切さを学習してもらう。

1. 開催日時　2023年2月12日（日） 10時～14時30分　晴
2. 参加人数　参加者 13名 （欠席3名）　参加スタッフ 13名
3. 行事内容　1 農作業; ジャガイモの植え付け、ダイコンの収穫
　2 森の整備; 落ち葉掻きと堆肥作り
　3 森の学習; 冬の生きものの過ごし方
　（受付時に手指消毒・体調確認等の感染症対策を実施）

4. スケジュールと活動概要

10:00-10:15	挨拶、本日のスケジュール説明と注意事項
10:15-10:40	ジャガイモの特長など説明、種イモの植え付け
10:50-11:30	落ち葉掻き　ササユリの谷にて30袋程度を詰め、堆肥場へ運搬
11:30-12:00	堆肥作り（ヌカ、醗酵鶏糞、水などを混ぜ、踏んで圧縮する）
12:00-13:00	手洗い後、昼食
13:00-14:15	冬の生きもの観察、冬越しの様子を学ぶ（エノキのコモ巻きを外して観察）
14:15-14:25	ダイコンの収穫（ひとり1本をお土産に）
14:25-14:30	今日の振り返り、次回の案内、2023年度の募集案内

5. 活動補足と所見
- ジャガイモの芋部分の特長を学ぶ。種イモ70ケ余りを分担して植え付ける。
- ササユリの谷で落ち葉掻きを行う。平面の落ち葉を中心に、一部は木道側斜面まで登って集めた。二人作業で、集めた落ち葉をガラ袋に詰めた。2人2袋目標を上回り平均3袋超を集めた。てんでんにガラ袋を肩にかけ、堆肥場まで運んだが、詰め込んで重たい袋もあり、予想以上の厳しい運搬作業となったが、みんなよく頑張った。
- 堆肥場では、3回に分け落ち葉を投入し足で踏み固めた。米ヌカ、醗酵鶏糞や水をまいたのち再度踏んで圧縮したが、2、3人は鶏糞のニオイを嫌う子供がいた。
- 冬の生きもの観察は、子ども達の人気メニュー。ススキ再生区で近頃珍しいミノムシを見つけた後、オオカマキリの卵やコクワガタを観察。スゲヌマではニホンアカガエルの卵塊。エノキのコモ巻きを解きテントウムシ、ゴマダラチョウのサナギなどの冬の過ごし方を観察した。

6. 活動風景

ジャガイモの学習

ジャガイモの植え付け

落ち葉掻きと袋詰め⇒堆肥つくりへ

堆肥つくり(水・ヌカ・鶏糞を混ぜ、踏んで圧着)

ダイコンを収穫し
水で洗ってお土産に！　⇒